

1、「武庫川<sup>むこがわじゅく</sup>塾」ネットワーク（仮称）  
（武庫川エコミュージアム構想・改め）

(1) 目的

武庫川流域に点在する武庫川に関連する“地域資産”を再構築し活用するために、これらによるソフト的なネットワークを構築し、“地域資産”の活用を流域住民に促し、それによって、武庫川流域における川と人、人と人（流域住民相互）のつながりと理解を深める。

(2) 「武庫川塾」とは

武庫川に関連する“地域資産”を「武庫川塾」と表現する。  
具体的には、流域内で武庫川に関して「何か」を提供できる①場所、②人（個人）・人々（市民団体等）、③施設・機関。  
武庫川（支川含む）との何らかの関わりをアピールできるものであれば、武庫川からの物理的な距離の遠近は問わない。

「武庫川塾」例示

場所 : 甲武橋左岸北側堤防上（武庫川らしい眺望）  
: 伊子志の渡し跡（武庫川の歴史を知る）  
: 阪神尼崎駅前浸水柱（高潮の被害を知る）  
人・人々 : 酒井秀幸氏（武庫川上流域・人と川の語り部）  
: 日出坂せきもりの会（自然に配慮した地域ぐるみの川作り）  
: エコグループ武庫川（武庫川を知るバスツアー）  
施設・機関 : 河川防災施設（武庫川の防災）  
: 武庫川上流浄化センター（水質の浄化）  
: 兵庫県立人と自然の博物館（武庫川流域の生態系情報）  
: 三田市立野外活動センター（羽東川流域の環境学習宿泊拠点）

得られる「何か」による分類を行っておくと利用しやすいと思われる。  
歴史・文化タイプ、自然タイプ、食・遊タイプ、防災タイプ、その他。

(3) 河川政策上の位置づけ

武庫川流域における治水・利水・環境のバランスのとれた川と人とのかかわりと、武庫川流域の上流・中流・下流・氾濫域の住民の相互理解促進を、行政・流域住民・流域企業等が協働して推進するための方策のひとつ。  
（基本方針に明記し位置づける）

(4) 立ち上げ

ソフト的なネットワーク構築であるため、企画・運営を担うしっかりした中核（「武庫川塾」ネットワーク推進母体）があれば、立ち上げは比較的

容易。立ち上げ当初は行政支援（特に財政）が必要であるが、民間主導で実施することが望ましい。

行政の役割：財政的支援、政策上の位置づけ

母体の役割：企画、運営（武庫川塾のコーディネート・登録・構成・活用推進等）

#### (5) 活用

「武庫川塾」ネットワーク推進母体および「河川レンジャー」、武庫川塾登録者を中心にして、これら武庫川塾を活用して、さまざまな活動展開の促進を図る。

ネットワークを支援するインフラとしては、既存アナログインフラも併用しつつ、インターネットを全面的に活用する（双方向性機能利用）。

#### (6) 登録と活用のイメージ

- ① 自薦、他薦で登録申請
- ② 運営母体（事務局）にて登録（簡単な審査基準が必要か？）
- ③ 登録看板の掲示（看板は流域の材で木工製作などの工夫、製作は近隣NPOとの連携）
- ④ 推進母体が活用策をコーディネートする。
- ⑤ 登録武庫川塾（特に、人・人々）や「河川レンジャー」が中心になり流域住民を対象に活用策を展開する。

#### 提供情報内容の例

登録番号：123番  
武庫川塾名：日出坂せきもりの会  
タイプ：歴史・文化／自然  
「日出坂の歴史語りを提供します。  
洗い堰の工夫を説明します。洗い堰  
の自然環境と暮らしを守る地域の活  
動をご紹介します。（要予約）」  
連絡先：・・・

登録番号：145番  
武庫川塾名：三田防災倉庫  
タイプ：防災  
「武庫川災害時の対応機器・資材置  
き場です。防災の日の防災訓練会場  
のひとつです。見学は事前申し込  
み」

- \* 武庫川においても、淀川水系で導入されている「河川レンジャー」を基本方針に明記し直ちに導入する。「河川レンジャー」も武庫川塾の重要な要素であり、同時に活用推進役となる。

この提案は、自前の武庫川エコミュージアム構想をもとに第5回まちづくりWG（2005.12.16）での長峯委員のネットワーク化提案でブラッシュアップしたものです。